

創立50周年記念行事



国際労働組合は第67回全国植樹祭に特別招待されました。

記念式典会場 長野市「オリンピック記念アリーナ・エムウェーブ」

国際労働組合は、ハイタク・バス事業という地球温暖化ガス排出企業における労働組合として、アクションプランに基づき2012年から長野県有林整備事業によるカーボンオフセット・クレジットの購入を通じた社会貢献に取り組んできました。そしてこれまで既に48トン（信濃町、長野県合算）の二酸化炭素（タクシー165,000km走行相当）をオフセットしています。

“組合創立50周年”を迎えるにあたり意義のある記念行事とするため、従来のカーボンオフセットの取り組みに加え、森林を守り、水を守り、将来の日本を守る「国土緑化計画」の一端を担うことが目先の利益を追わず、将来に亘る発展を期す国際労働組合の取り組みに相応しい意義あるものとして「全国植樹祭」へ組合員の心を込めた寄付を行うことが昨年の定期大会において全会一致で確認されました。

6月5日、長野市の「オリンピック記念アリーナ・エムウェーブ」において開催された第67回全国植樹祭は国際労働組合5,100名を代表して茨木中央執行委員長が特別招待者として出席するなか、国土緑化による心豊かな国民生活の実現に願いを込め天皇・皇后両陛下によるヒノキ、カラマツ、シナノキ、シラカバなどのお手植え、お手播きが行われました。

今年の開催県となった長野県は、国際労働組合が福利厚生施設として初めて購入した「タングラム斑尾東急リゾート」に始まり、「ゆうゆうサークル」「スキーツアー&スクール」など数多くの行事を開催するなど永年に亘ったお付き合いをしてきました。また、国際自動車と「ふるさと協定」を締結したこともあり、東日本大震災で都内の食糧不足の際に大量の食糧を送っていただき私たちに助けていただきました。

さらに、黒姫高原で開催した第38回のゆうゆうサークルでは、そのご縁もあり信濃町在住のC・Wニコルさんが私たちの為に特別講演して下さるなど大変所縁の深い県でもあります。

その長野県で開催される全国植樹祭に協賛することは、国際労働組合らしい社会的に意義のある取り組みとしてのみならず、わずかであっても恩返しになるものとして全組合員が誇りを持ち、共に祝えるものと確信しています。

植樹祭への参加は、喫緊の課題である地球温暖化対策としてのカーボンオフセット事業の重要性と、50年、100年先を思い苗木を植えることで次の世代に豊かな森林資源を引き継いでいくことの大切さを教えてくれました。

このことは、今後の国際労働組合の運動方針の中で忘れてはならない大切な価値観だということを感じてくれる機会にもなりました。

永年に亘り国際労働組合の運動・活動にご理解ご協力いただいたすべての組合員の皆さんの力の結集により国際労働組合は本年4月17日に“組合創立50周年”を迎えることができました。そしてそれは同時に新たな50年に向けてのスタートでもあります。

今回長野県で開催された「第67回全国植樹祭」への協賛の意義を全組合員が共有するとともに、今後も組合員の皆さんが国際労働組合に加入して良かったと実感でき、また社会に対して誇りの持てる運動・活動を進めていきますので、改めて組合員皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。



記念式典会場にて



天皇・皇后両陛下による苗木のお手植え



天皇・皇后両陛下によるお手播き



天皇陛下お手植えの苗木